

## 「神の力強い御手」

### I ペテロ 5章6－7節。

「ですから、あなたがたは神の力強い御手の下にへりくだりなさい。神は、ちょうど良い時に、あなたがたを高く上げてくださいます。  
あなたがたの思い煩いを、いっさい神にゆだねなさい。神があなたがたのことを心配してくださるからです」

桜川の桜も咲き始めて、春らしく温かい日も多くなりました。

喜楽希楽サービスの送迎でも桜川も通りますので、ご利用者の方々と車の中からお花見を楽しむことのできる季節です。わざわざ遠くにお花見に行かなくても、桜川の桜が一番綺麗だということを皆さんでいつも話しています。

毎日のように桜川の桜を見ることはできますが、喜楽希楽会の皆さんとどこかに出かけてお花見ができないというのは、寂しい思いがいたします。

そして、なによりも寂しいのは、喜楽希楽会のランチを1年間、食べるができなかったことです。

私の喜楽希楽会での奉仕は、バスの運転と食べることです。バスを運転してレストランに着きますと、喜楽希楽会の優しい皆さんが、「食べきれないから」とおっしゃって、何人かの方々が少しずつ食事を分けてくださいます。

ですからいつも私の器は大盛りになります。そして皆さんも、「今日の夕飯はいらいかしら」と話しながら、普段よりも多く召し上がられます。

そんな喜楽希楽会が1年間ありませんでした。そうしたら私はちょっとやせてしまったようです。

喜楽希楽会の皆さんもやせてしまっていないだろうか心配になります。「運動不足になってしまっているのではないか、寂しい思いをしているのではないか」と、いつも気にしています。

喜楽希楽会のこと、コロナ禍のこと、身の回りのこと、家族のこと、日々の生活のこと、心配になったり、気になったりするとき、私は聖書の言葉に励まされます。

### I ペテロ 5章6－7節。

「ですから、あなたがたは神の力強い御手の下にへりくだりなさい。神は、ちょうど良い時に、あなたがたを高く上げてくださいます。  
あなたがたの思い煩いを、いっさい神にゆだねなさい。神があなたがたのことを心配してくださるからです」

「神の力強い御手」という言葉があります。

神様はどこか遠くで、ただ見ているだけでなく、私のことを力強い御手で、導いてくださっている。必要があれば、ふさわしいときに助けを与えてくださるお方がいるということです。

いつでもどこでも、神様が助けてくださる。神の力強い御手でこの私を導いてくださっている。そして同じように、喜楽希楽会の方々を神様が力強い御手で導いてくださっている。「神の力強い御手」という言葉に、私は安心することができます。

なかなか喜楽希楽会の方々にお会いできなくても、神様がお一人お一人を守ってくださっている。私が何もできなくとも神様が力強い御手で導いてくださっている。

「神様がいるから大丈夫」だと、そのような信仰を訓練されるコロナ禍のこれまでの1年間でした。

私たちの信仰において大切なことは、自分はへりくだるということです。神様に任せるという信仰です。

「ですから、あなたがたは神の力強い御手の下にへりくだりなさい」。

コロナ禍の1年間だけでなく、これまでもずっと神様は私たちを力強い御手で導いてくださっていました。

私は喜楽希楽会で皆さんと一緒に過ごしながらか、たくさんの恵みを受けてきました。大盛りのランチだけでなく、皆さんの信仰者としての姿を見ることができました。人生の大先輩、信仰の大先輩の方々の生きる姿から、神の力強い御手によって導かれることの素晴らしさ、そして神の力強い御手の下にへりくだる皆さんの生き様を通して、信仰者としての謙遜な姿を教えられてきました。

神様は、私に肉的に養ってくださるだけでなく、霊的にも養ってくださる機会を与えてくださっていたのです。

信仰を持って、神様にゆだねて、神の力強い御手の下にへりくだる歩みがあります。

しかし、へりくだる歩みは難しいのです。

私たちはどうしても、自分の力に頼り、自分の考えや自分の力でどうにかしようとしてしまいます。そして自分でもできる、大丈夫だと、自信を持って、高ぶってしまうのです。私たちの心の中には、神の力強い御手にへりくだって導かれることを拒む罪があります。

### マルコの福音書7章20－23節。

「イエスはまた言われた。「人から出て来るもの、それが人を汚すのです。内側から、すなわち人の心の中から、悪い考えが出て来ます。淫らな行い、盗み、殺人、姦淫、食欲、悪行、欺き、好色、ねたみ、ののしり、高慢、愚かさで、これらの悪は、みな内側から出て来て、人を汚すのです。」」

私たちの心の中には悪い考えがあり、高慢の罪があります。

そんな罪深い私たちに対して、神様は私たちが心の中にある悪い考えをすべて捨てて、悔い改めて、正しい生き方へと立ち帰るようにと願っておられます。

ですから、神様は高ぶる私たちに様々な方法を通して、弱さを教えられます。それは体の弱さかもしれませんが、何か試練を与えられたり、人間関係や人の言葉を通して弱さを教えられたり、祈りやみことばを通して弱さを示されることかもしれません。

コロナ禍を通して、神様は人間の弱さを教えてくださいます。人間は肉体的に弱いこと、人間の心の中にある様々な感情、社会の中に隠れていた悪があることなどです。

私自身もコロナ禍にあって、自分の力ではどうしようもないことがあること、喜楽希楽会の方々になにもできない無力さ、自分の弱さ、足りなさを実感しています。

### Ⅱコリント12章9節。

「しかし主は、「わたしの恵みはあなたに十分である。わたしの力は弱さのうちに完全に現れるからである」と言われました。ですから私は、キリストの力が私をおおうために、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう」

私たちは「わたしの恵みはあなたに十分である。わたしの力は弱さのうちに完全に現れるからである」という主の声を聞くことができるでしょうか。

私たちは弱いときにこそ、神様の恵みの祝福を受けることができます。コロナ禍においても、ここまで礼拝が守られてきました。オンライン礼拝という新しい方法で礼拝ができるようになりました。オンライン礼拝を通して、様々な事情で会堂に来られない方々にも開かれた礼拝となりました。

喜楽希楽会の活動はお休みとなっており、皆で集まることはできなくとも、これまで伺ったことのなかったお宅に初めて訪問させていただく経験もいたしました。お会いしたときに、または電話で、お祈りすることもできました。

喜楽希楽会がお休みでも、喜楽希楽サービスでお会いすることができる方もいらっしゃいます。改めて、教会に喜楽希楽サービスが与えられていることの恵みに気づかされました。

私たちが弱さを受け入れ、そして主に助けを求めるときにこそ、主の力が働き、主の恵みを経験することができるのです。

「ですから私は、キリストの力が私をおおうために、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう」

自分の力ではなくて、キリストの力によって。自分の計画通りではなくて、神の力強い御手によって導かれる歩みの中に、素晴らしい恵みを経験することができます。

ですから、私たちは心配する必要がないのです。

### **I ペテロ 5 章 7 節。**

**「あなたがたの思い煩いを、いっさい神にゆだねなさい。神があなたがたのことを心配してくださるからです」**

私たちのすべてを神の力強い御手におゆだねしましょう。「あなたがたの思い煩いを、いっさい神にゆだねなさい」。主なる神様を忘れて、自分の力でなんとかしようと考えずに、主なる神様の導きがあることに期待いたしましょう。思い煩いをゆだねて、ただただ主の御前にへりくだりましょう。

イエス様もおっしゃってくださっています。

### **マタイの福音書 11 章 28 節。**

**「すべて疲れた人、重荷を負っている人はわたしのもとに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」**

「自分で頑張らずに、わたしのもとに来なさい」とイエス様が私たちを招いておられます。

私は初めて教会に言ったその日に、この聖書のことばを聞きました。これまで自分ひとりで頑張ることが当たり前だった私は衝撃を受けました。そして、自分の人生は自分の力で、自分の責任でというプレッシャーに疲れていた私は、ふっとこのイエス様の言葉で解放される経験をいたしました。

しかし、クリスチャンになってからも、ついつい自分の力で頑張ろうと、自分の計画で人生を進めてしまおうとする、高ぶるような思いが出てきてしまうのです。

なかなか、イエス様と共に歩むということは難しく、気が付くとイエス様から離れて自分一人で歩いてしまっているようなことがあります。

いっさい、すべてを神様にゆだねること、神の力強い御手の下にへりくだること、というのは簡単なことではないようです。

教会を一步外に出れば、「まずは自助から」と、自己責任社会、競争社会と言われるような世界で、自分の力で一生懸命に生きなければ脱落してしまうような、生産性がなければ排除されてしまうような、恐れや不安を感じつつ、助けを求めたらもう終わってしまうんじゃないかと、本当に神様を頼って大丈夫なのかと思いついてしまいます。

しかし、聖書でははっきりと言われるのです。

#### I ペテロ 5 章 7 節。

「あなたがたの思い煩いを、いっさい神にゆだねなさい。神があなたがたのことを心配してくださるからです」

私たちは聖書のことばと、この世の中の現実を見て葛藤します。神様を信じて自分は大丈夫だろうか。神様に任せてしまっているのだろうか。へりくだる人生、謙遜な態度で、本当に世の中でやっていけるのだろうか。相手に自分の弱さを見せることは、「負け」じゃないのか。

#### 出エジプト記 6 章 7 - 8 節。

「わたしはあなたがたを取ってわたしの民とし、わたしはあなたがたの神となる。あなたがたは、わたしがあなたがたの神、主であり、あなたがたをエジプトでの苦役から導き出す者であることを知る。

わたしは、アブラハム、イサク、ヤコブに与えると誓ったその地にあなたがたを連れて行き、そこをあなたがたの所有地として与える。わたしは主である」

主の導きの中で、モーセはイスラエルの民をエジプトの奴隷から解放するという大きな働きを担うことになります。しかし、モーセも私たちと同じように、この世の現実と神様のご計画との間で、悩み、葛藤します。

「神様は本当に助けてくださるお方なのか?」、「神様にエジプトから救うほどの力があるのか?」、「何のために自分は今ここにいるのか?」「このエジプトという地で自分は何をしたらいいのか?」、「こらからどうなるのか、状況はもっと悪くなってしまわないだろうか?」「神様は何を計画しているのだろうか?」

もう自分のこともわからず、すべてを投げ出してしまいそうになるモーセに神の声が聞こえたのです。

#### 出エジプト記 6 章 2 節。

「神はモーセに告げて仰せられた。「わたしは主である。」

モーセも私たちと同じように世の中の現実を見て、自分の力で生きようとしていました。自分の能力で、自分の計画で何とかしようとしていました。しかし、自分の弱さ、無力さを味わい、もうどうしようもなくなったとき、神様の声を聞くのです。

### 出エジプト記 6章 2節。

「神はモーセに告げて仰せられた。「わたしは主である。」

神様は「私が主である、おまえではなくわたしだ！」と言われるのです。「あなたがやるのではなく、わたしがやるのだ！」「すべてをわたしに任せろ」という神の力強い声が聞こえてきたのです。私が主ではなく、神が主だということです。

「自分が！」「自分の力で！」と自分中心の考え方になってしまう私たちに対して、「わたしは主である」と語りかけるお方がおられます。

自分の力では、あるいは誰か人に助けを求めても、一步も進むことも出来ないし、立ち入ることができない世界があります。主によって導かれなければ進みことのできない道があります。主に信頼し、助けを求めてこそ、進みことのできる道があるのです。

いざというときに助けを求めることができるかどうかは大事なことです。

私の娘は、できないことがたくさんあります。でも、親に助けを求めればできることを知っています。だからいつも親に頼っています。親を信頼しています。

そんな娘の姿を見ながら、私も自分の力ではできないことがあることを知らなければならぬ。そして、だからこそ、「わたしは主である」とおっしゃってくださる神の力強い御手に導かれて、主に頼って、主に信頼して生きていかなければと、娘を通して教えられています。

そんな娘も最近、「やだやだ」とよく言うようになりました。たいへんです。

お風呂に入るのも「やだ！」、なんとかお風呂に入ると、今度はお風呂を出るのが「やだ！」となるのです。先日には、娘がひとりで何かやっているの、じっと見ていたら、「見ないで！」と言われてしまいました。娘が生まれてからずっと大事に育ててきたのに、「やだ！」「見ないで！」と言われてしまうと、ちょっと寂しくなってしまいます。それだけでなく、娘が車に乗り込んだと思ったら、運転席に座ってハンドルを握っていることがありました。教会の駐車場に来れば、後ろから、「ここがいい！」と駐車場所を支持するような声を聞いたこともあります。

娘にも成長と共に、「自分がやりたい」という思いが芽生えてきたようです。

成長の喜びと共に、これから私と娘の関係はどうなっていくのだろうかという不安も出て来ました。そして、自分と神様の関係はどうだろうか、自分が人生の運転席に座ってしまうことはないだろうか、自分で進む先を決めてしまっていないだろうか、考えさせられるのです。

そんな娘もまだまだ抱っこが好きで、いつも親に抱かれて安心をしています。小さな娘から親を見ると、親がどれほど大きな存在に見えているのかなと、ふと考えることがあります。大きな神様の力強い御手に包まれる安心感を私も求めたいと思うのです。

「わたしは主である」という声を聞いた、モーセがイスラエルの民を導くことになりました。モーセとイスラエルの民は、エジプトからの救いという神の力強い御手を体験しました。民は弱さと罪深さを思い知らされながらも、主に信頼すれば、主の驚くような助けを受けることができることを知ったのです。

私たちも、ときにモーセやイスラエルの民のように自分の力の限界を思い知らせることがあります。しかし、自分の弱さを知ることは、自分ではなく神の力にゆだねるチャンスとなります。

自分の弱さを誇れば誇るほど、自分の弱さを告白すればするほど神は喜ばれるのです。神の力強い御手で助けてくださるのです。

「できない！ やって！」と言われれば、親は喜んで手伝います。しかし、「自分でやる！」と言われてしまったら、親は助けの手を差し出すことはできません。

モーセは、自分の力は弱くとも、主の助けは力強いことを知ることができました。自分の弱さを知り、主の力強さを知ったモーセは、力強く語ります。

#### 申命記 20 章 1 - 4 節。

「あなたが敵と戦うために出て行くとき、馬や戦車や、あなたよりも多い軍勢を見ても、彼らを恐れてはならない。あなたをエジプトの地から導き上られたあなたの神、主が、あなたとともにおられる。

あなたがたが戦いに臨む場合は、祭司は進み出て民に告げ、彼らに言いなさい。「聞け。イスラエルよ。あなたがたは、きょう、敵と戦おうとしている。弱気になってはならない。恐れてはならない。うろたえてはならない。彼らのことでおじけてはならない。

共に行って、あなたがたのために、あなたがたの敵と戦い、勝利を得させてくださるのは、あなたがたの神、主である。」

イスラエルの民はエジプトから救い出されました。しかし、救われて終わりではありませんでした。救われてから進むべき道がありました。救われてから行くべき場所があったのです。

私たちは一度救われて終わりではないのだということを教えられます。救われて、なお主に導かれて進むべき道があり、主と共に歩む人生があるのです。

イスラエルの民を導いたのは軍隊のリーダーでなく、霊的なリーダーである祭司でした。私たちは、力によってではなく、礼拝と神のことばによって導かれていかなければならないということです。

そして、主はみことばによってわたしたちを励ますのです。

「聞け。イスラエルよ。あなたがたは、きょう、敵と戦おうとしている。弱気になってはならない。恐れてはならない。うろたえてはならない。彼らのことでおじけてはならない。共に行って、あなたがたのために、あなたがたの敵と戦い、勝利を得させてくださるのは、あなたがたの神、主である」

イエス様の弟子であったペテロも、主に導かれて生きることを教えられました。

イエス様と出会ったとき、ペテロはシモンという名の漁師でした。

#### ルカの福音書5章4－11節。

「話が終わるとシモンに言われた。「深みに漕ぎ出し、網を下ろして魚を捕りなさい。」ると、シモンが答えた。「先生。私たちは夜通し働きましたが、何一つ捕れませんでした。でも、おことばでするので、網を下ろしてみましよう。」

そして、そのとおりにすると、おびただしい数の魚が入り、網が破れそうになった。そこで別の舟にいた仲間の者たちに、助けに来てくれるよう合図した。彼らがやって来て、魚を二艘の舟いっぱい引き上げたところ、両方とも沈みそうになった。

これを見たシモン・ペテロは、イエスの足もとにひれ伏して言った。「主よ、私から離れてください。私は罪深い人間ですから。」

彼も、一緒にいた者たちもみな、自分たちが捕った魚のことで驚いたのであった。

シモンの仲間の、ゼベダイの子ヤコブやヨハネも同じであった。イエスはシモンに言われた。「恐れることはない。今から後、あなたは人間を捕るようになるのです。」

彼らは舟を陸に着けると、すべてを捨ててイエスに従った」

ペテロは自分の弱さ、罪深さを示されるとともに、イエス様の力を体験し、そしてすべてを捨ててイエス様に従う人生を選びました。

ペテロは経験したように、神の力が働くことで驚くべきことが起こります。私たちはそれを体験しているでしょうか。すべてを捨ててイエスに従うことができるでしょうか。

私の信仰生活は恵みで満ちあふれています。16年前に教会に導かれて、「すべて疲れた人、重荷を負っている人はわたしのもとに来なさい」とイエス様の声を聞いてから、「わたしについてきなさい」というイエス様の声を聞いて、教会に仕える決心をしてから、6年前にめぐみ教会に導かれてからも、神の言葉を聞き、祈り、主の恵みに生かされてきました。

めぐみ教会のスタッフに加えられて、青年との交わりが与えられて、礼拝の受付で妻との出会いがあり、福祉主事の働きが与えられ、喜楽希楽会や喜楽希楽サービス、からしだねの豊かな働きのあふれるばかりの恵みを体験しています。ひとつひとつが恵みで、毎日毎日が恵みの連続です。たいへんなこともあるけれども、心配になるようなこともあるけれども、疲れたり悩んだりすることもあるけれども、そういうときは、弱さを教えられるときであり、神の力強い御手の下にへりくだる恵みを体験するときでした。

神様を知らずに、へりくだることも知らなかったこの私が、イエス様と出会い、イエス様の言葉に導かれて今ここに立っている。洪先生がアメリカに行くという不思議なタイミングでめぐみ教会に導かれ、洪先生が帰ってきたら、めぐみ教会を出ていくときかと思っていたら、今こうして立っている。神様の恵みの証しです。

#### I ペテロ 5章 6－7節。

「ですから、あなたがたは神の力強い御手の下にへりくだりなさい。神は、ちょうど良い時に、あなたがたを高く上げてくださいます。

あなたがたの思い煩いを、いっさい神にゆだねなさい。神があなたがたのことを心配してくださるからです」

私たちは、神の力強い御手に導かれてこれからも歩み者でありたいと思います。